

## 黙示録19章11-21節 「王の王、主の主の到来」

### 1A まことの主権者 11-16

1B 白い馬による戦い 11-13

2B 激しい御怒り 14-16

### 2A 反逆者への裁き 17-21

1B 猛禽による宴会 17-18

2B 生きたままの地獄 19-21

## 本文

私たちの学びは、ついに黙示録 19 章の後半に来ました。ここが黙示録全体のクライマックスです。黙示録の冒頭は、「イエス・キリストの黙示」であります。イエス・キリストの現れ、という意味です。これまで明らかにされていなかったものが、全開で明らかにされるということです。イエスご自身の来臨の栄光と力が現れるということです。(全文を読む)

前回私たちは、御使いが自分を拝むヨハネを戒めて、自分も同じ神のしもべだ、「イエスの証しは預言の霊なのです」と言ったのを見ました(10 節)。預言はイエスを証しするために、御霊によって与えられています。聖書全体は、イエスを証しするための預言であります。主は、復活されて弟子たちに、キリストが苦しみを受けてから栄光に入ることを、律法と預言、詩篇から説き明かされました。そのイエス様が、オリーブ山から天に昇られました。御使いたちは弟子たちに言いました。「使徒 1:11 あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上っていくのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」と言われました。そして聖書の預言を見ますと、主が来られることについての預言は何千とあります。そして、その中で初めに来られる預言が数百年のに対して、再び来られることについての預言は十倍近くあります。

主が、ご自身の血を流されて人々を神の民として、再び来られて、世界を神ご自身のものとされます。悪魔とそれに追従する勢力を全て滅ぼされ、ご自分の義と平和によって支配される国を確立させていただきます。その出来事が、今読んだところであります。

### 1A まことの主権者 11-16

1B 白い馬による戦い 11-13

<sup>11</sup> また私は、天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は「確かに真実な方」と呼ばれ、義をもってさばき、戦いをされる。

「天が開かれているのを見た」とヨハネは言っています。以前、ヨハネは同じように「天が開けた」

幻を見ました。4章1節、「開かれた門が天にあった」とあります。その時は天に引き上げられ、神の御座をヨハネは見ましたが、今は、天から主ご自身が戻って来られる姿を見えています。

そして、「白い馬がいた」とあります。私たちは既に、白い馬については黙示録6章で見ました。その馬が現れた後で数々の災いが降りかかります。赤い馬が出てきました。戦争による火、血を流す赤色でした。そして黒い馬が出てきました。飢餓による顔の色です。そして青ざめた色の馬が出て来て、それが死を示していました。こうして患難が始まったのです。しかし私たちは、その白い馬がまさしく、偽キリスト、キリストに似せて非なるもの、反キリストであることを知りました。平和と言いながら、突如として破滅をもたらす者です。

しかし、こちらは本物です。白い馬によって偽のキリストによってもたらされた戦争を、本物のキリストは戦われて、それを終結させます。馬に乗って来られることについて、ゼカリヤ書6章で、馬と戦車が諸国の民に神の怒りを現わすために遣わされています。「6:1-3 私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来た。山は青銅の山であった。第一の戦車には赤い馬が、第二の戦車には黒い馬が、第三の戦車には白い馬が、第四の戦車には斑毛の強い馬が、数頭ずつつながれていた。」そして、異邦の諸国に戦われて、「わたしの霊を鎮めた。(8節)」と言われています。これは、戦いのために先頭に立つ王、そして諸国を征服する王の姿であります。主は、罪や不義に対する怒りを示すために、権力を持つ者、力ある者、神とキリストの権威に反抗する者たちに対して戦われます。主の権威に対して戦いを挑んでいる者たちに対して、力をもってそれを制する、やめさせるということです。

戦いというのは、どうして生まれるのか？ヤコブの手紙に書いてあります。「4:1-2 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るのではありませんか。あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。」その欲望による戦争が、世の始まりの時に天において起こりました。サタンが、神の権威と地位を欲しがったのです。こうやって戦いが天において始まりました。そして地において、同じようにして蛇がエバを惑わしました。神のようになりたい、という欲望です。アダムとエバの子カインはアベルを殺しました。アベルが神に受け入れられたのを妬んだからです。そして、その暴虐は、カインの子孫に間に広がったので、それで主は洪水という力をもってその暴虐を消し去られました。そして、神は、ご自分の民を行かせないファラオに対しても、十の災いをもって裁かれました。彼がイスラエルを奴隷としたいのも、欲望の現れです。このようにして、自分で欲しがっているところには、争いや戦いが起こります。

そこで主は、これらの戦いを終結されるために戦われます。ペルガモンの教会に、バラムの教えを奉じている者たちがいたので、「悔い改めなさい」と言われました。けれども、「2:16 そうしない

なら、わたしはすぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦う。」と言われました。悪や罪に対して、対話をすることはありません。エバは、蛇と対話したので、惑わされました。神の救いは、キリストの十字架に現れます。その十字架は、罪を死でもって罰し、また肉とその欲望を十字架という拷問と死に至らしめる手段によって殺すのです。改善するのではなく、殺してしまう、滅ぼしてしまうことによって義と平和をもたらします。それで、主は戦われるのです。

そして、主イエス・キリストの現れにおいて特徴的なのは、この方が様々な名によって呼ばれていることです。この方が呼ばれている名を見ていくだけでも、私たちはこの方に栄光と力に触れることができるでしょう。

初めに、「**確かで真実な方**」であります。反キリストは、その逆と言って良かったでしょう。平和を約束しながら、それを裏切ります。その反対のことが起こります。契約を破る者です。力ある者は、しばしばこの裏切りを行います。多くの方は、何かを期待して救いを求めるのですが、その救いが裏切られて生きています。しかし、まことの王、私たちの主イエスは裏切らない方です。3章14節に、「**アーメンである方、確かで真実な証人**」という方としてラオディキアの教会に対して現れていました。人は偽りの中に行きたいと願ってしまいます。その罪の性質のゆえ、自分たちの真実に触れられたくないと思います。しかし、福音はその隠れたはかりごとすべて明るみに出し、それでなおのこと、神がキリストにあって私たちをご自身に和解してくださるのです。ですから、反抗する勢力に対して、主は、真理をもって戦われます。

その一方で、主に期待して、この方に拠り頼んで来た者たちにとって、自分たちのための正しい裁きをしてくださるということで、**確かで真実な方**であります。「**ヘブル 10:23 約束してくださった方は真実な方**ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。」とヘブル書の著者は言いました。

そして、「**義をもってさばき、戦いをされる**」ということです。私たちは、復讐は神に任せなさいという教えを受けてきました。なぜなら、義をもって裁かれる方がおられるからです。私たち自身も、義をもって裁かれる方がおられることを思って、主を恐れかしこんで、地上で慎み深く生きることを勧められています(1ペテロ 1:17)。そして、私たちは全てのことを知らないのだから、私たち自身は義ではなく、神のみが義なる方であるから、早まった裁きをしてはいけないことを戒められています。「**I コリ 4:5** ですから、主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、間に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごと明らかにされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです。」

そしてそのようにして、平和が来ます。恒久の平和は、義と共に来ます。イザヤ書には、必ず正義が来て、それから平和が来ることが書かれています。義のないところには、平和はありません。

ヘブル書 12 章にも、「義という平安の実を結ばせます」と書いてあります(11 節)。ヤコブ書にも、「義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。(3:18)」とあります。義があつてこそその、平和です。ですから、エレミヤは何度となく、正義がないのに平和を言っている人々を咎めました。「6:14 彼らはわたしの民の傷をいいかげんに癒やし、平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。」罪を取り除くことなくして、傷は癒されません。ですから、罪への裁きを語らない言葉は、サタンからのものであり、偽の平和の使者であり、それが反キリストです。

<sup>12</sup> その目は燃える炎のようであり、その頭には多くの王冠があり、ご自分のほかはだれも知らない名が記されていた。

主は、「燃える炎」の目を持っておられます。使徒ヨハネが初めに、イエス様の栄光の姿を見た時に、その目が燃える炎であったことを述べています(1 章)。主は、全てのことをお見通しになる方であり、それにしたがって公正に裁かれる方です。先に引用したコリント第一 4 章に、「主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごと明らかにされます。」とありましたね。主の前では、全て裸にされていて、全てのことについて神に申し開きしないといけません。

そして、「その頭には多くの王冠」があるといえます。ゼカリヤ書 6 章において、大祭司ヨシュアが複数の冠が重なっている冠をかむりました。キリストを示していたからです。これは、イエス様が王の王であられるということです。全ての王権、王たるもの、権威や権力、威光、富、位、これらのものを与えられている者たちが地上にいますが、それらの者たちを全て掌握され、支配しておられる王たちの王であられることを意味しています。全て、権威の与えられている者たちが、自分自身が天からの支配を受けていることを知る必要があります。

そして、「ご自分のほかはだれも知らない名が記されていた」とあります。名というのは聖書において、その人物の本質を示します。ですから、神の御名と言う時には、神の本質、その名誉、あらゆる尊厳がそこに含まれています。ですから、神の御名をほめたたえたと、神をほめたたえたいという言い方だけでなく、使われているのです。そして、名を付ける時に、その名を付けている人が所有する、支配するという意味合いがあります。アダムが動物に名をつけましたね。ですから、イエス様に誰にも知らない名があるというのは、父なる神ご自身にしか支配されていない、人にはいっさい支配されないことを示すのです。そこで、イエス様には、「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。(ピリピ 2:9)」と言われているのです。

<sup>13</sup> その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。

ここにおいて、「血」は罪の贖いのための流されたものではありません。これは、返り血です。イザヤ書にその預言の背景が書かれています。「63:1-4「エドムから来るこの方はだれだろう。ポツ

うから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」  
「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をもとにする者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。復讐の日がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。」ご自分に反抗し、戦いを挑む者たちに対して主は、戦われます。

私たちは、ここで復讐の日、贖いの年という言葉が並んでいることに注目しないといけません。主は、血を流した者は血を流すことによって裁かれることを定めておられます。目には目、歯には歯、そして命には命です。主が、そのようにして血を流す者たちに対して血をもって戦われます。これによって、主は贖いを果たされるのです。それは、血を流された者たち、不正に殺された者たち、虐げられた者たちに対する復讐によって、彼らに報いてくださいます。敵を打ち滅ぼすことによって、神は救ってくださいます。ですから、これは贖いなのです。

そして、イエス様は一体誰なのか？どなたなのかということは、「その名は「神のことば」と呼ばれた」というところに現れています。ヨハネは福音書で、「ヨハネ 1:1-2 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。」と言いました。主は、物理的な武器を使って敵に戦われるのではありません。神の言葉によって戦われます。イエス様は、天地は過ぎ去っても、ご自分のことばは決して過ぎ去らないことを語られました。神のことば、イエス様のことばそのものが、あらゆる問題に対して戦う武器なのです。

## 2B 激しい御怒り 14-16

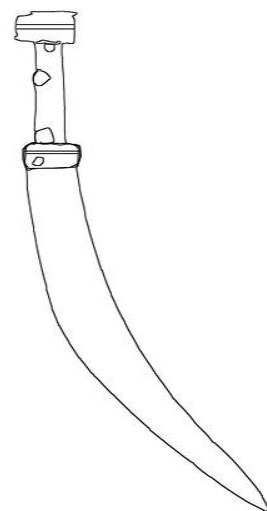
<sup>14</sup> 天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、白い馬に乗って彼に従っていた。

この「天の軍勢」とはだれのことでしょうか？8節です、「花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された。」教会のことです。私たちは大患難の前に引き上げられ、子羊との婚姻を経て、主とともにこの地上に戻ってきます。ユダの手紙には、「見よ、主は何万もの聖徒を引き連れて来られる。(14節)」とあります。そして聖書には、聖徒たちの他に天使たちも戻ってくることが書かれています。第二テサロニケ1章7節に、「主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れる」とあります。ですから、教会や聖なる御使いと共に、主は戻って来られるのです。「コロサイ3:4 私たちのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。」

そして、「白い馬に乗って彼につき従った」とありますね。付き従うだけで、戦いません。主がひとりで戦われるからです。「イザヤ 63:5-6 見回しても、助ける者はだれもなく、支える者がだれもないことに?然とした。それで、わたしの腕がわたしの救いとなり、わたしの憤り、それがわたしの支えとなった。わたしは怒って諸国の民を踏みつけ、わたしの憤りをもって彼らを酔わせ、彼らの血の滴りを地に流れさせた。」そう、主ご自身のみが救いをもたらします。私たちが主を助けることもなく、そんなことはできませんでした。ご自身が戦われるのです。

<sup>15</sup> この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。また、全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれるのは、この方である。

主はみことばによって諸国の軍隊を打ちます。ここの「剣」のギリシアは、バルカン半島のトラキア人の使っている、非常に長い剣のことです。メシアについての預言で、主が口をもって戦われることが書いてあります。「イザヤ 11:4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。」



今、初めに来られた主は、地上においてこの剣を隠しておられました。「49:2-3 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。そして、私に言われた。「あなたはわたしのしもべ。イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」」イエス様の言葉は、へりくだった言葉、柔和な言葉でありましたが、そこには塩がきいていたのはそのためです。心が刺されるようでもありますが、私たちが滅ぼされることはありません。それは、矢筒の中にご自身の剣を隠しておられたからです。しかし、その言葉には力がありました。黙れと言われたら、悪霊は退くし、嵐も静まります。この力あることばを完全にふるまわれるのが、終わりの日です。

そして、主が神の御国の王となられるとき、この方は牧者のように世界を支配されます。むちあるいは杖は、過ちを正す時に使われます。「1コリント 4:21 あなたがたはどちらを望むのですか。私はあなたがたのところへむちを持って行きましょうか。それとも、愛と優しい心で行きましょうか。」とパウロは、コリント人を戒めるために話しました。ここ、イエス様が来られた時には、鉄の杖です。反逆する者に対しては、容赦なく打つために用いられます。神の国において、反逆する者たちはイエス様の力によって滅ぼされます。詩篇二篇 9 節に、「あなたは鉄の杖で彼らを牧し陶器師が器を砕くように粉々にする。」とあります。不正や不義を行なう者どもには、容赦ない制裁をもって対処され、正義と平和を確立されるのです。

そして、「全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれる」と言われます。これも、黙示

録の中で出てきました(14:18-20)。主は、力ない弱い方ではありません。主は、力をもって憐れられます。神の憐れみには力があります。主が弱くなられて、十字架に付けられた時さえ、太陽は暗くなり、地震が起こり、その場はすべてご自身が掌握されていました。しかし、主の忍耐を軽んじている者たちには、このように容赦ない裁きを下さるのです。

<sup>16</sup> その衣と、もものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

この「王の王、主の主」のギリシア語は、王も主も大文字になっています(BΑΣΙΛΕΥΣ ΒΑΣΙΛΕΩΝ ΚΑΙ ΚΥΠΙΟΣ ΚΥΠΙΩΝ)。英語では、すべて大文字で LORD OF LORDS, KING OF KINGS となっています。主の栄光の完全な現われです。ここで分かるように、反抗する諸国の王たちと対等に戦わるのではありません。完全に、ご自分に従属している者たちであるはずなのが、反抗して戦いに挑んでいるのですから、勝ち負けではなく、ただ愚かの一言に尽きます。主はこのような形で、全世界に対してご自身が王の王、主の主であることを明らかにされます。すべて隠れたことは、明らかにされます。主は、すべてを公正に裁いてくださいます。

## **2A 反逆者への裁き 17-21**

### **1B 猛禽による宴会 17-18**

<sup>17</sup> また私は、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。彼は大声で叫び、中天を飛んでいるすべての鳥たちに言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。<sup>18</sup> 王たちの肉、千人隊長の肉、力ある者たちの肉、馬とそれに乗っている者たちの肉、すべての自由人と奴隷たち、また小さい者や大きい者たちの肉を食べよ。」

ハルマゲドンの戦いの最終段階です。「一人の御使いが太陽の中に立っている」とあります。イエス様が1章16節で、太陽のように輝いていましたが、この御使いがその栄光を反映しています。そして、御使いが全ての鳥に命じます。小さい者、大きい者、自由人と奴隷、すべてというところに無差別だということです。神のさばきは、それを免れるものはいません。王から軍人、馬、すべて残らずということです。イエス様はこのことを、既に弟子たちにお語りになっていました。「死体のあるところ、そこには秃鷹が集まります。」とあります(ルカ 17:37)。

聖書では、肉を食べるといのは、神のさばきを示す描写として出てきます。人々は死んだら、それを丁重に葬ります。それがその人の尊厳を表していました。ですから、死んだ後に死体が放置されている、しかも鳥に食われるというのは、もっとも卑しめられている状態です。エレミヤ書において、神のさばきが現れる時に、「エレミヤ 7:33 この民の屍は、空の鳥や地の獣の餌食となるが、これを追い払う者もない。」とあります。そして、ゴグの戦いにおいても、彼らが鳥の餌食になる裁きがエゼキエル書 39 章 17 節に書かれています。

そして、なぜここが「神の大宴会」と呼ばれるのか？それは、先ほどの「子羊の婚宴」と比較されているからです。主の婚宴に招かれているのか、それとも神の大宴会に招かれているのか？ということでもあります。

## 2B 生きたままの地獄 19-21

<sup>19</sup> また私は、獣と地の王たちとその軍勢が集まって、馬に乗る方とその軍勢に戦いを挑むのを見た。

黙示録では、まずバビロンに対する裁きが書かれていました。獣と他の王たちが、女を憎みそれを倒しました。それも、神ご自身が意図されていたことでした。宗教的バビロンは倒れました。そして商業的バビロンは、大地震によって倒壊します。獣は既に神のようになっており、そのように拝まれていました。けれども、商業バビロンまでが倒されます。最後に彼らはハルマゲドンに集結して、そして最後の戦いを行なうのです。

そしてこれが、最後の場面です。世界中から集まってきた諸国の軍隊は、バビロンを倒し、それから反キリスト軍と、それに対抗する軍とが交戦し、そしてボツラ、あるいはペトラにいるユダヤ人たちを滅ぼそうと相集まりますが、そのときにイエスさまが戻ってこられます。その戦いはエルサレムのほうに移り、エルサレムの住民は自分を助けてくださるメシアは、かつて十字架につけたナザレ人イエスであることを知り、悔い改めます。そして世界の軍隊に対して主は鉄槌を加えられ、一気に滅ぼされます。主はオリブ山に立たれて、そのとき地殻変動と天変地異が起こります。神の国が建てられる準備ができました。そして、主は国々をさばかれて、ある者は永遠の地獄に、またある者は御国の中に入れられます。そして、主はエルサレムから世界を君臨されます。

<sup>20</sup> しかし、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。

世界を惑わし、荒廃へと至らせた反キリストと、反キリストを拝むように仕向けた偽預言者は、ここでさばきを受けます。刻印を受けた者たちも裁かれます。生きたままゲヘナの中に投げ込まれます。覚えていますか、13章にて反キリストは、「だれがこの獣に比べられるだろうか。だれがこれと戦うことができるだろうか。(4節)」と世界中の人からあがめられました。しかし主の前では、このようにイチコロなのです！そして、「生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた」とあります。生きたままというのは、神の怒りの激しさを物語っています。反抗した者に対して、それを扇動したものに対する裁きです。コラの反乱を思い出してください、彼らは生きたまま地面が割れて、陰府に突き落とされました。



<sup>21</sup> 残りの者たちは、馬に乗っている方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が彼らの肉を飽きるほど食べた。

残りの者たちは、ゲヘナではなくこのように、死体が鳥によって喰われるという裁きを受けます。そして 20 章では、悪魔が底知れぬ所につながれる話が出てきます。千年後に解き放たれ、今度は悪魔自身が、ゲヘナに投げ込まれる話が出てきます。

このようにして、主は悪に対して裁かれます。今は、心の中で神に反抗しているのか、従順なのかが隠されていますが、それがやがて、全世界的にはっきりと現れる時が来ます。主は、いのちの道か、滅びの道かどちらかを選びなさいと言われます。